

とも今其所を去るに、京上至賜二郡ハ西ノ
海あれハ海邊店といふ名ナリ。按ずるに飽
海郡十里塚村の下手より小湊までを去人
湊邊といふ。然るに海邊の將領もや、慶
長十七年吹浦村の社建立の條に「三店
松佐ハ吹浦村とあり、又羽津記に「豊永、
朝日山軍、海田出張の条下に飽海田川之店
三郡の云々とあり、三郡といふハ五代を田
川格引飽海三郡といひ、又長中飽海郡
親高寺、小外川」の書状も、格引郡と云

建利郡の下に注をけ人々字もあり——人
 まて又能書之七人の隈は物を書敷きの郡
 まはあふに物古川南の町は田川出羽あ
 郡あり——を後出羽を指し郡と——飽海を
 添て元因之郡と云々々やとおひふんをさ
 ま——もあるねと延喜式は伊勢波祢社田川
 郡は属されも出羽を田川郡と改稱——
 も姓古の事よて後代の事よ見ふを且指
 引の号國史よ見ふ——
 延正曰寛文九年
 江戸より小笠原山城守永井伊賀守等